

## 第5回 新しい千葉の未来を切り開く「教育立県ちば」を実現する有識者会議 会議録

日時：令和6年10月8日（火）

午前10時30分から正午まで

場所：県庁中庁舎9階企画管理部会議室

### 1 開会

### 2 会議の公開

### 3 教育長挨拶

### 4 議題

(1) 第4期教育振興基本計画素案について

(2) 専門部会結果概要について

(3) 今後の予定について

#### 【教育政策課長】

今回、皆様方にお示ししました素案につきましては、これまで4回の有識者会議でいただきましたご意見をはじめ、保護者、教員、学生へのアンケート、また中高生交流会での意見を踏まえるとともに、3つの基本目標ごとに設置した専門部会の委員の皆様にも、ご意見をいただきながら策定を進めてまいりました。

専門部会での主なご意見につきましては、資料2として配付させていただいておりますので、ご参照いただければと思います。

それでは初めに、素案の構成につきましてご説明いたします。第1章は計画策定の基本的な考え方です。そして、第2章は基本構想編として、千葉県教育をめぐる現状と課題、千葉県教育の目指す姿を記載しています。第3章は実施計画編として、施策横断的な視点と、各施策、主な取り組みを記載しています。第4章は計画の推進に当たってとして、本計画の推進体制や教育投資、そして各指標について記載をしております。

第1章については、計画策定の趣旨、計画の性格、計画の構成と期間、策定のプロセス、これらについて記載をしております。

第2章基本構想編では、千葉県教育をめぐる現状と課題を整理するとともに、今後10年後の千葉県教育の目指す姿と、これを実現するための基本理念、基本目標を記載しております。

第1節、千葉県教育をめぐる現状と課題では、1として、第3期計画の検証。2として、各課題と取り組むべき視点について、人口の地域間格差と少子高齢化や、急速な社会変化への対応など、これまでご意見いただきましたものを踏まえ、6つの項目で整理して記載をしております。

第2節ですが、10年後の千葉県教育の目指す姿について、基本理念と基本目標を記載をしております。

基本理念につきましては、前回会議以降、事務局でも改めて協議を進め、人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る「人」の育成、一人一人が可能性を最大限に伸ばし、自分らしく活躍するために、今のところさせていただいております。

基本目標、目指す姿ですが、骨子案でお示ししました3つの基本目標と目指す姿を記載をしております。

基本目標の記載順ですが、基本目標1を「子供たちの自信を育む教育の土台づくり」。基本目標2に「未来を切り拓く『人』の育成」。基本目標3を「地域全体で子供を育てる体制とすべての人が活躍できる環境づくり」としております。

この3つの基本目標はどれも重要ではありますが、教員が心身ともに健康でやりがいを持って働ける環境、また子供たちにとっても、安全・安心で魅力ある教育環境、そして、誰一人取り残されない、多様なニーズに応えられる教育環境、こういった環境が整って、その上で、未来を切り拓く「人」の育成がなされるであろうとの考えから、「子供たちの自信を育む教育の土台づくり」を基本目標の1としたところではあります。

第3章の実施計画編では、基本構想編に記載した基本目標を達成するために、令和7年度から5年間に取り組む施策と主な取組を記載しています。

第1節では、施策横断的な視点として3つの視点を記載しています。この3つの視点は、今後5年間で取り組む施策を横串として貫くもので、1つ目が、多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の形成を通じたウェルビーイングの実現。2つ目が教育デジタルトランスフォーメーションの推進。3つ目が、産業と教育との連携強化による人材育成、これらについて記載をしております。

第2節では、施策・取組を記載しております。こちらは全体の施策体系となっておりまして、全部で13の施策と、43の主な取組に整理して記載しています。

なお、前回の会議で、実施計画編の骨子案をお示ししたところですが、専門部会でのご意見も踏まえ、施策の内容や目的、効果などから、施策の名称の見直し、順番の入れ替えや統合分割をし、改めて整理し直しております。

ここでは、今後5年間に実施する施策と主な取組を記載しています。施策ごとの構成としては、「目標・現状と課題・取組の基本方向・主な取組」の4つで構成しております。

専門部会の皆様からのご意見は、主にこちらの各施策・取組にそれぞれ反映させて作っておりますが、今回は特に重点的に取り組むものに絞って説明をいたします。

まず、施策1「優れた教員の確保と教育の質の向上」です。これまで各委員の皆様からも、教職員のウェルビーイングの向上はとても大切なことであるといったご意見いただいております。

目標を、教員の働き方改革を進め、教員が子供と向き合う時間を確保するとともに、誇りを持って働くことができる環境をつくるとし、主な取組(1)では、教員志願者の確保に加え、ご意見をいただきました特別免許状の活用等についても盛り込みました。(3)「チーム学校の実現と持続可能な教育環境の整備」では、外部人材の有効活用や、校務DXについても記載しました。

また、教員が自身の研究と修養の時間の確保が可能となるような勤務環境づくりに取り組んで参りたいと考えております。

施策2「安全・安心で魅力ある学校づくり」では、学校の老朽化対策にとどまらず、安全・安心で、新しい時代に対応した魅力ある環境整備を進めていきます。主な取組(1)「社会に支持され選ばれる魅力ある学校づくり」では、県立学校の魅力を向上させるとともに、社会的ニーズに応える学校づくりを進めていきます。

また、(3)「安全・安心な学びの場づくり」では、エレベーターの設置や空調の整備、特別支援学校の過密化対策に取り組めます。

施策3「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進」では、障害のある子供の学びと切れ目のない支

援体制整備や、早期からの教育相談体制と支援体制の充実のための関係機関との連携などについて記載をしております。

施策4「多様なニーズに対応した教育の推進」では、中高生の交流会においても、一人一人の居場所がある、いじめが相談できるような学校というような意見もありましたので、それらを踏まえて、不登校、いじめ、学び直し、子供の貧困、外国児童生徒への対応に加え、主な取組(6)「相互の多様性を認め合う学校風土の醸成」では、児童生徒、保護者、地域、そして教員を包含した学校全体で、相互を認め、他者のウェルビーイングを思いやることのできる文化や風土の創出に向けた取組に努めてまいります。

また、これらの多様なニーズを必要とする子供を育てる保護者への支援についても、学校はもちろんのこと外部人材を活用して推進してまいります。

ここからは、基本目標2の施策と取組になります。施策5「人生を主体的に切り拓くための学びの確立」の主な取組(1)「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」では、これまでもご意見いただきました探究的な学習や文理の壁を越えた知識・能力を備えた人材の育成について触れ、子供自身の学び方の習得などを記載しました。

主な取組(4)「ICT活用の日常化」には、専門部会でもご意見をいただいておりますが、ICT活用を前提にした事業の再構築、そして教員の指導力の向上についても記載をしております。

施策8「豊かな心の育成」では、主な取組(2)児童生徒の自殺対策の推進において、児童生徒の小さなSOSのサインを学校、保護者、地域、関係機関など複数の目で見落とさない支援体制について、またICTを活用した自殺の未然防止や自殺企図の早期発見について記載をしております。

また、主な取組(4)子供の権利擁護では、国の「こどもまんなか実行計画2024」にもあるように、子供若者を権利の主体と認識し、人格、個性を尊重し、権利を保障する取組を推進していきます。

施策10「学びを将来へとつなぐ体系的実践的なキャリア教育の推進」では、主な取組(2)「社会に求められる産業人材の育成」において、企業と連携し、専門的職業教育の充実や、地域で必要とされる人材の育成に取り組みます。

基本目標3の施策11「家庭教育への支援と家庭・地域との連携・協働の推進」の主な取組(2)「地域全体で子供を育てる体制の構築」では、地域コーディネーターの育成と配置についての重要性を鑑み、学校と地域をつなぐ人材の育成と拡充を記載しております。

また、取組(3)「虐待など不適切な養育から子供を守る取組の充実強化」では、スクールロイヤー等の専門人材と連携し適切な対応となるよう努めてまいります。

施策12「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」では、一人一人が豊かな人生を送れるよう、生きがいの形成やキャリア形成を支援するため、リカレント教育やリスキリングの推進について記載をしております。

第4章では、「第4期計画を推進するに当たって」、「推進体制や計画の進捗管理」について記載しました。第1節「県民と一体となって取り組む体制づくり」では、教育委員会職員の資質向上、また市町村、NPO、企業、地域、保護者など、多様な主体との連携、教育投資の充実について記載しております。

第2節「計画の進捗管理」では、計画の実施状況を把握し、目標がどれだけ実現できているかを検証するため、千葉県教育の目指す姿を計る指標として、3つの総括表を定めました。また、施策ごとに設定した目標の達成状況を定性的に図るため、施策ごとに実施指標を設定し、毎年度実施する教育委員会の点検・評価により、実施状況の要因分析を行い、施策の見直しを図っていくこととしております。本日の資

料では指標につきましては、候補として事務局が考えている項目名のみを列挙していますが、最終的には、指標ごとに目標値を定めて公表したいと考えています。

#### 【小宮山委員】

本日示された素案はこれまでの会議での各委員の意見をはじめ、アンケートや専門部会のご意見を踏まえながら、教育庁内また知事部局の関係課で検討し、文案を作成したもので、かなりの量となっています。

#### 【芦澤委員】

全体としては、委員からの様々な要望、意見等が網羅されており、非常にいい形でまとめていただいたと私は満足しております。

その中で、産業界・経済界から意見として1つだけ、踏み込んでいただきたい部分を申し上げます。

基本目標1施策3に、特別支援教育の推進が項目として盛り込まれております。教育振興計画ですから、当然教育のことが中心で良いと思いますが、特別支援教育を受けた後の障害をお持ちのお子さんがいずれ大人になり社会人になる時に、個性をポジティブに発揮して、胸を張って社会の中で生きていけるようにしたい。できれば、自身の経済的な自立も図ることを展望した表現にできたら良いと感じておりました。

基本目標3施策12に、一般の方も含めた、生涯学習の推進という項目のところに、また、施策12(6)に、障害のある人のことが書かれておりますので、将来のことも検討されているとは思いましたが、いずれも生涯学習にとどまっているという気がします。

障害の有無に関わらず、人生にわたって学習することは、教育の大事なテーマの1つだと思います。具体的には取組(6)に、関係機関や団体等と連携協働しながら実践的な研究を行うと記載がありますが、産業界でも障害のある方をお迎えして、働いていただいて賃金をしっかり受け取っていただいて、そして社会の中で自立していただく。経済面からのサポートを企業側がすべきですし、本計画でも積極的に後押ししていただきたいと思いました。そのような表現にしていただけると、企業側も受け入れやすいと考えます。企業の障害者雇用がなかなか進まずに、社会の課題となっています。また、これから企業の伸びしろとして、人材確保の一環として、むしろ積極的に働く場を提供していくということが企業の発展の上で大事だと考えております。

#### 【池田委員】

千葉県らしさも含めて、重要な考え方や施策がバランスよく書かれており、大変良い計画になっていると思います。その上で、計画をより良いものとし、また計画を実行に移していく観点から、今回は指標を中心にコメントいたします。

20から21ページに、施策横断的な視点として3つの視点が挙げられています。これらの視点は大変重要な視点であるからこそ、これら3つの視点から、千葉県の教育を進めていくために、「ウェルビーイング」「教育DX」「産業と教育との連携」に関する指標をそれぞれ設定して、進捗状況を確認した方が良いと考えます。特に、「教育DX」に関する指標は、施策ごとの実施指標の候補にも含まれていないように見受けられますので検討いただければと思います。

また、施策12の指標につきまして、「仕事や就職の上で役立つ学習をしたいと思う人の割合」となっていますが、学習をしたいと思うだけで学習をしない人もいると思うので、「仕事や就職の上で役立つ学習をしたことのある人の割合」、あるいは、「学習した成果を仕事や就職で生かした人の割合」にしてはいかがでしょうか。

さらに、計画の進捗管理について意見を申し上げますと、第4章第2節に「計画の進捗管理については、教育委員会の活動状況の点検及び評価の中で、有識者の知見も活用しながら実施し、毎年度その結果を公表する」と記載されています。結果の公表にとどまらず、もし芳しい結果が得られていない場合には施策を見直すなど、PDCAサイクルを確立していく必要があると思います。

最後に、学校教育が中心かとは思いますが、それだけにとどまらず、子供から大人までの生涯教育も含めた、人づくりにおいて、学ぶことの楽しさや喜びを感じることができる教育や、後々まで記憶に残る教育が、千葉県で多く展開されることを願っております。そのような教育を通して、未来を切り拓いていく人財が多く育成され活躍していくことを期待申し上げたいと思います。

#### 【岩本委員】

ここまでの議論を踏まえていただいて、本当にいい形でまとめに向かっているというところでは、事務局の皆様に感謝申し上げます。

その上で、3点申し上げます。

1つ目が、施策横断的な視点です。ここが1つのポイントだと思っていまして、特に、「ウェルビーイング」と「DX」、そして「産業と教育との連携」の3つですが、ウェルビーイングとDXは時代の潮流ということもあり、どこの自治体でもおおよそ言われています。その中でもこの「産業と教育との連携強化による人材育成」は千葉県計画においては特色だと考えています。

この視点を施策横断的に進めていくところに、新しさや千葉県の高い志があると思って見させていただきましたが、横断的と書かれていながら施策を見ていったときに、この視点が入っているように読み取れないと感じました。

例えば、施策1教員の確保のところでも、教育界だけでは解決できない課題に対して、産業界からも特別免許状を含めて、一緒にやっていくようなニュアンスはきっと入っているのだとは思いますが、文章を読む限り、産業界との連携強化による人材育成が読み取れないです。

あとは、キャリア教育の推進のところも、教科書的な書き方ぶりになっています。本当の意味で、千葉県の産業界と連携して、冒頭にも書かれている千葉県の課題を解決していく方向性が読み取りにくいと思います。特に、社会に求められる産業人材の育成のところは、掘り下げて書けると良いと思います。

指標もいろいろ示されていて、これから見直しや補充がされていくと思いますが、産業界と連携した人材育成に関する指標が入っているようにも見えにくいです。せっかく横断的視点で載せているので、もう一度横断的に入っているか、指標まで含めて一貫性があるかというところを見直していただきたいです。

2つ目は、施策2の安心安全で魅力ある学校づくりのところに、「社会に支持され選ばれる魅力ある学校づくり」があって非常に良いと思って見させていただきましたが、読んだときに何をやっていこうとしているのかがわかりにくいと思いました。県立学校に、「多様な学習ニーズ」や「地域に求められる人材育成」など、社会的要請にこたえる学校づくりを進め、その魅力を全国に発信する他、中長期的な展望

に立って学校規模や配置の適正化を進めるということで、いろいろな要素がここに入っていると思うのですが、しっかりと文章を分けて、1つ1つ何の目的で、どうしていきたいのかをわかりやすく、かつ、イメージが持てるようにしたほうが良いと思います。例えば、魅力を全国に発信するときに、何のために魅力を発信するのか、本当に魅力ある高校があっても定員割れをしていたり、産業人材の育成が十分にできていなかったりするのであれば、その魅力を発信して全国から生徒がここで学びたいというように集まって来る。そのための受け入れなどの環境整備も市町村と連携しながらやっていくというようなことになると思います。

最後3つ目は、外国にルーツがある児童生徒のところの書き方が、そのような子たちにも日本語を一応できるような体制を整備しますというふうになっています。しかし、大きい文脈で見たときにせっかく海外の子供たちも千葉県に居るということを積極的な意味で「生かしていく」という視点が必要だと思います。せっかくいる外国の子供たちに日本語や文化習慣を教えることに加えて、そういう子たちの良さや持っているバックグラウンドをもっと教育の中で生かしていきたい。それが日本で生まれ育った子たちにとっても、学び合いになっていくと思います。外国から来る子供たちを良い形で受け入れながら、うまく学校教育に生かすと言うと語弊あるかもしれませんが、千葉の未来を創る人、産業人材の育成などに積極的に活用していくという発想を持って、国際社会への玄関口である千葉県は取り組んでいただけると良いと思います。

#### 【小山委員】

これまでの会議で話し合った内容が盛り込まれていて、本当に大変な作業だったと思います。ありがとうございます。

その上で、さらに良くするために、33 ページに探究的な学習の推進についての文言が、(1) に書かれていますが、最近、地域探究を学ぶことで、中・高生の目が地域の企業や、地域の課題に目が向いて、地域愛が育ったり、地域の企業へ就職が促されたりすることがあります。そういったことから、「地域探究」とか「地域と連携した探究学習」という文言を入れていただければ良いと思いました。産業と学校が繋がる、もしくは地域と学校を探究学習によってつなげるという感じになるとさらに良くなると思います。地域探究をコアに突き進めていくことが千葉県の特徴だと、打ち出せれば全体的な流れと繋がると思います。

2点目は、教員働き方改革についてですが、「質の高い教育を行う学校体制の充実」に教員の時間外労働が45時間を超えると書かれているのですが、実際に長時間労働を減らす方策について具体的に書かれている部分が少ないと感じました。例えば、学習サポーターの充実、事務補助員の増員等を行うことで、現在抱えている業務負担を減らし、長時間労働を短くするという文言があると良いと思います。

#### 【小宮山委員】

質問が出ましたが、教員の働き方改革、部活動の地域移行などでおそらく出ていると思います。

#### 【教育政策課長】

ご指摘のあった働き方改革の関係で時間外在校等時間を短縮する手立てについては、施策1の優れた教員の確保と教育の質の向上のところの(3)で、チーム学校としての体制ですとか、教員の多忙化解消

に向けた校務DXの推進というような文言では入れさせていただきましたが、もう少し踏み込んでというところもあると思いますので検討していきたいと思います。

#### 【國見委員】

施策1の優れた教員の確保と教育の質の向上については、質の高い先生がいてくれるのはありがたいですが、ずっと同じ学校にいてくれるわけではない。その時々で、いい先生だったとか、ちょっと問題あるかなど、いろいろと思うこともありました。先生方は、勉強を教えなくてはならないし、内面のことまで気にしなくてはならない。その負担は大きいと思いますので、先生方の心のケアも必要なのではないかと感じました。

また、コロナ禍がきっかけでいろいろなことが問題として浮き彫りになった。これまで経験したことのないような災害もありました。そういう中で、安全で安心して通える学校、災害時に避難所となる学校、そういう面でも計画に記載出来たらいいと思います。たくさんある学びの中でも、災害を乗り越えていけるということは、十分な学びになるのではないかと思います。

あと、産業と連携した人材育成についても力を入れるべきだと思っています。この会議を通して、産業界と協力していくことの重要性を強く感じたので、この特徴に関してもっと広く、たくさんの方に知っていただきたいという気持ちです。

最後に、基本目標3の「地域全体で子供を育てる体制とすべての人が活躍できる環境づくり」に関しては、地域性がとても影響すると思います。私はすごく過疎地で子供を育てましたが、地域全体がすごくまとまっていて、とても子育てしやすかったです。ただ、やっぱりこれが街中と都会的なところになると地域全体というわけにはいかないかもしれない。やはり、地域性も盛り込んでいただきたいです。

全体的にととてもすばらしくて、立派な目標・施策だと思いますが、形だけにとらわれている気も少ししてしまいます。もう少しやわらかく表現できたら良いのではないかと正直感じました。

#### 【小宮山委員】

行政の方々には耳が痛いことかもしれませんが、何とか今のご意見を取り入れていただければと思います。

#### 【教育政策課長】

この計画そのものがいろいろ盛りだくさんでわかりにくいというご意見かと思っています。やはり、県民の皆さんもわかるように、もう少しわかりやすくしたようなリーフレットみたいなものは、来年度になりますが、作って県民の皆さんに内容をお伝えできるような形になるように考えております。

#### 【國見委員】

学校の先生に向けて出されるものですか。リーフレットもあるようですが、私は見たことがないです。長いことPTAで活動していますが、有識者会議に関わるようになって初めて見ました。

#### 【教育政策課長】

先生だけでなく、保護者の皆さん、また地域の方々に知っていただく必要があると思いますので、努力

していきたいと思います。

#### 【平田委員】

第4期計画素案につきましては大変緻密に作られていて、今まで各委員から意見がありましたところを修正すれば、このままで概ねよろしいかと思います。

「優れた教員の確保と教育の質の向上」という課題では、先ほど小山委員から御意見がありましたように、教員のウェルビーイングという問題はなかなか難しいと思います。私の学校でも教員の募集を一生懸命やっていますがなかなか難しい。現在、教員の仕事がブラックだというような風潮が社会全般に流布しているのかもしれませんが。教員を増員しようとしても、教員志望者が増加し実際に教壇に立つまでに長ければ10年近いタイムラグができます。ですから教員のウェルビーイングについては早急に取りかかっていただかなければならない。

まず、教員の雑務を減らし、そして私も何度も言っているように、教員が子供と向き合う時間を増やすのみならず、教員が子供と向き合わなくてもいい時間、つまり自分に向き合う時間まで確保できるような職場環境があつて初めて、教師が魅力ある職業となり、結果として優秀な教員が入ってくると思っています。このあたりは給特法の問題もありますが、早急に具体的な対策を始めていかないと、将来本当に優秀な教員は集まらないと思います。子供が少なくても良い教育はできますが、良い先生がいないと良い教育はできないのです。

また、私学振興について取り上げていただいて本当に感謝をしております。一方で、東京の私立中高一貫校の魅力は大きく、中学の段階から東京の私立学校に進学してしまう子供たちも多数存在します。そんな子供達は千葉県がふるさとだという心は希薄になってしまう。もちろん、県立高校の附属中学のような形で優秀な生徒を地元を引き留めるという方策もあるのですが、「学校教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」に学力試験は課してはならないと示されているにもかかわらず、適性検査という名目で入試を実施しているわけです。その辺を踏まえれば、県立の中学で優秀な生徒を県内に引き留めることには限界があると思います。私学振興で千葉県内の私学を活性化し、意欲も学力もある子供が1人でも多く県内に残って、千葉がふるさとになるような機運の醸成ができれば良いと思っています。

また、教員不足については、学校現場の話として、東京の私立中高一貫校では大卒の初任給が29万円の学校もあります。初任給ですから、給与体系全般に関わってくるので、私どものような資金力のない私学は、どうしても東京の財政的に豊かな私学に高額の初任給で良い先生を釣り上げられてしまう。教員を志望する子供を増やす方法と、私学振興を含めて、県内の優秀な先生と子供たちが千葉県をふるさとだと思ってくれるような手立てを考えていただきたいと思います。

最後に、近年は学習障害や発達障害で困っている親御さんが非常に多くなっている状況です。また、学校に来られなくなる子供も、私どもの学校でも残念ながら多くいます。これらのニーズへの対応についても一層の配慮をお願いしたいと思います。

#### 【向野委員】

素案を拝見しまして皆様の努力の跡がよくわかります。ありがとうございます。

1つは、特別支援について、丁寧に受けとめていただいたことをうれしく思っております。その中で、

多様な学びとして通常学級、通級、特別支援、特別支援学校とあって、連続性について触れられているのですが、スムーズなつながりのことを主に述べられていると思われま。場を設けるだけではなく、例えば、お子さんの様子によって柔軟に学校を移ることができるというふうになってきているわけなので、その辺をこの部分に、「柔軟に支援をしていく」というような文言があると嬉しいと思いました。

交流及び共同学習の促進とありますが、実際に今回の中では特別支援を受ける方について書かれているのですが、小中学校、高校も含めて、その中でどうやればうまく社会に溶け込んでいけるのかといった視点を盛り込んでいただきたいと思っています。千葉県は全国に先駆けて高等学校の通級も始めている。世界的にはインクルーシブという潮流があるわけで、そのためには場を同じくして活動をしたり、過ごしたりするとかいうようなものが交流や共同学習だけではないのですが、千葉県がどう考えていくかをぜひ入れていただきたいと思っております。

それから、先ほど芦澤委員が述べられた生涯学習のところでは、関係機関や団体と連携し協働と書いてありますが、関係団体に限るのではなく、例えば社会教育施設など、そこに通っている地域の人と自然に交流できるようなことが必要だと思っております。

千葉県が取り組んでいる「たまごプロジェクト」の学生を学校現場に自然に入れていく。これは千葉県らしいシステムです。今でこそ、採用試験に加点の要素になっているようですが、さらに進めていって、夢みたいな話になりますが、学生もアルバイトのお金を出すぐらいのつもりで。学生が実際に学校現場行っている様子を聞くと、学校のお手伝いさんのようなことをしている。確かに未熟な学生ですから、任せることはできませんが、何も知らない方よりはできることがいっぱいあるはず。そういう学生たちが、「学校に行ってよかった」、「教育って面白いな」と思ってもらえるような仕組みにしていけたら、学生も学校で働きたいと思えるようになります。

#### 【小宮山委員】

これまで4回の会議の通じて様々なご意見いただいて、大幅な修正も含めてこのように素案として示されました。また、本日もご意見をいただきましたので、さらにブラッシュアップされていくだろうという気がしております。

この有識者会議に出て改めて感じるのは、行政も含め学校現場との間に立つ中間的なマネジメントを行う組織のようなものを置くことで、学校と「産業界、特別支援、外国籍児童生徒の支援団体」などが有機的に関わるようになってきます。予算が絡むことなので、ここではっきり申し上げることはできないのですが、教員の業務負担の軽減や若年層の保護者対応等の不安解消策として、県が中間的なコントロールセンターを設けることで、教員が生き生きとしてくると思います。

お気づきの委員もおられるかもしれませんが、これまでは取組の基本方向などは文章で表現されていましたが、さらに読みやすくするというので、箇条書きになっています。これについて、何かご意見がありますでしょうか。私はシンプルで良いと思います。ただ、全部箇条書きなので、例えば施策の1であれば1-1とか何か工夫があるとわかりやすいという気がします。

最後にPDCAサイクルを回すということが記載されており、実施指標が示されましたがこれも難しいものもあるのかと思います。例えば、スポーツ庁が出している運動に関する基本調査では、「運動している人がどのぐらいいますか」という指標は、オリンピック・パラリンピックに向けてどんどん数値が上がって行きました。45%もの人が週1回以上運動しているという結果が出ました。しかし、細かく見ていく

と、通勤のときに階段を使っていれば運動にカウントされてしまいます。だからみんなやっていますよと丸をつけるわけですが、実は厚生労働省の調査では「週2回以上30分以上運動していますか」と聞き方なので実は全然数値として上がっていないです。運動習慣がある人の割合は、実はこの30年間全然上がってないという現実があって、だからこそ生活習慣病関連の医療費が上がっていく。このあたりを踏まえ、指標で扱う文言については十分考慮したうえで、指標を設定していただければと考えております。

#### 【芦澤委員】

特に産業界と教育界の連携が大事だといったご指摘は今回に限らず、何度も出ていますが、そのところで今からでも、新たに基本計画に取り込めるような好事例がありましたらぜひお伺いしたいと感じました。

それともう1点は、この最後の章にあります第4章の計画の推進に関して、直前に小宮山座長からもありましたが、定量的な評価項目は大事かと思えますけれども、定性的な評価をそれぞれの分野から専門の方がお集まりになって、次期基本計画がスタートしてからの推進状況、また成果の上がり具合についての意見交換ができるような場があると良いと感じました。今回の有識者会議に声がかかったとき、そもそも現行の基本計画の進捗状況はどのようにチェックされているのかということに非常に関心がありました。ぜひ、有識者だけでなく、県庁の皆様も関わって一生懸命作った計画の中身が、正しく学校現場に反映されることを期待しております。

#### 【岩本委員】

先ほど小山委員の言われた、地域探究という話は非常に重要で効果的だと認識しています。私も取り組んできましたが、一方で、地域探究学習を一人一人の生徒に寄り添ってしっかりやろうとすると教員の働き方改革に逆行しかねない。地域と学校、地域と生徒を繋ぐということは、一斉授業でやるよりも遥かに時間や調整コストがかかります。計画中でも一部触れられていますが、学校と地域、学校と産業界との連携協働体制をしっかり作ってその上で、地域探究学習を属人的な繋がりということではなく、体制として推進していけるようにしないと、教員がすごく大変な思いをすることになってしまいます。あとは、学校と地域を繋いでいくようなコーディネーター人材をちゃんと配置するとか、活用する形で、非常に生き生きした学びになっていくということがポイントの1つ目だと思います。

2つ目は芦澤委員からのご質問はなかなか難しいと思いました。例えば、熊本県の高森町にある高校では、漫画やアニメで売り出そうとしている。近くにアニメ制作会社があり、会社と町と県が一緒になって運営している。マンガ学科を創設して、海外も含めて全国から生徒を募集していて、地元の子もそうですがそういったことをやりたいと希望する生徒も多く、倍率も高くなっているみたいです。

また、熊本県では半導体に関する学科も今度作るという話もある。10年先、20年先を考えたときに産業界として必要な人物像が教育界とずれているのであれば、今はスクールミッションやスクールポリシーを掲げることになっているので、育てたい生徒像を産業界と協議して、共通目標を設定していくなど考えていかななくてはならない。

最後に体験活動の推進について一言申し上げたいです。今、世間では体験格差が言われています。家庭の環境によって、旅行に行けるとか、いけないとか、いろいろな体験の格差や学習意欲の差が生じています。体験活動を推進していくことは重要だと思っていますので、その中でも越境体験とか修学旅行など

の教育旅行で他の地域に行くことで、自分たちの地域やふるさとを外からの視点で見直すと、愛着や誇りの形成にも効果的だと思っています。海外に行ければ良いのですが、国内の他地域でも十分に越境学習は効果がありますので、もっと進めても良いと思っています。修学旅行もその家庭の事情で、お金の積み立てとか、負担と言うような声も全国的にあります。東京の一部の区では、修学旅行の代金の無償化みたいな話がありますが、千葉県もせっかく成田空港もありますし修学旅行の支援をするとか、できれば「成田空港 18 歳まで無償化」もしくは、「子供は年に 1 回飛行機乗っていいよ」ぐらいの気概を千葉県も見せて、子供の体験活動の機会を創出する発想もあると良いと思います。

#### 【池田委員】

先ほども申し上げた通り、学ぶことの楽しさや喜びを感じることができる教育や後々まで記憶に残る教育を数多く実施していただくことについて、期待申し上げたいと存じます。

グローバル人材の育成に関して、日本人の海外留学は県だけでなく、外国人留学生の受け入れも非常に重要であり、生徒・学生たちに良いインパクトを与えることができるのではないかと考えています。国の支援のもと、アジアの高校生を留学生として受け入れたところ、アジアの留学生は総じて本国語も英語も日本語も話せるなどとても優秀で、受け入れた学校の日本人の生徒たちがとても良い刺激を受けて、英語の勉強を始め前向きに取り組むようになったといった話を伺ったことがあります。国の制度も活用しながら、海外、特にアジアの留学生を受け入れてはどうかと思います。

また、先生は、一昔前ではある意味「特別の職業」だった印象がありますが、今は様々な情報が多く溢れる中で、学生の就職先として、他の職業との競争が激しくなっているように思います。政府・地方自治体では、そのような意識を持って、どうすれば優秀な人材が先生になってくれるかを考え、魅力的な職業にしていく必要があると思います。人手不足の中で、将来的に例えば、一方通行的な授業はデジタルを使って共通化し、現場の先生は個別指導に徹する、といったことも考えられるかもしれません。

過去にこだわらず、どうすれば生徒・学生はもちろん、現場の先生や将来受け入れる企業・社会等にとって、良い教育になるのか、ぜひ考えていただきたいと思いますし、私も考えていきたいと思っています。

経団連の取組で感じるのですが、財界人の方々は、将来の日本を支える人材をどのように教育していけば良いのかについて、真剣に考えていらっしゃいます。ぜひ、千葉県出身の財界人の方も多くいらっしゃるかと思いますし、オールジャパン・オール千葉県で良い教育が推進できたらと思います。

#### 【小山委員】

この会議を通して、それぞれ立場は異なりますが、委員の皆さんの「千葉県のために」という思いをひしひしと感じました。それと同じように、千葉県の小学生・中学生・高校生の皆さんが将来千葉県を好きになってもらって、千葉県で就職して、千葉県に住んでもらえれば良いというふうに思っています。

先ほど、岩本委員がおっしゃったように、地域探究学習を実践するときには、確かに学校の先生にすべて任せてしまって、児童生徒が探究に行く先の企業とか、地域を学校の先生が独自で開拓していくとなると、それは負担がかかりますので、例えば、本会議でも何回か出ましたが、行政や大学が持っている地域で協力してくれる企業人や団体等のリストを学校に提供する。地域の課題について探究活動を通じて、児童生徒が千葉県には面白い企業があるということで興味を持って、将来千葉県に貢献する人材が育てば良いと思っています。

あとは教員養成に関してですが、千葉県の学校では、将来的に労働環境が改善されて、働きやすいと宣伝することで、他県からも教員志望の方が殺到するような労働環境になれば良いと思っています。

#### 【國見委員】

私も子供が3人いて、真ん中の子が、中学校の教員を目指して大学で頑張っています。家庭でも教育振興基本計画の話をしたことがありますが、今の時点で不安を感じています。

子供は、小学校中学校のときに、素晴らしい先生にめぐり合えて、その先生と一緒に働きたいと言って、今一生懸命頑張っています。千葉には「たまごプロジェクト」という制度があるので、そちらに興味があるらしく、保護者としても支えていきたいと思っています。

#### 【平田委員】

皆さんの意見を伺って、やはり子供たちには、自然体験・生活体験・社会体験が必要だと考えました。例えば、自然体験で、夜空いっぱい広がる星を見せてあげることも大切。お金もかかりますし、何とかひとつ、地域で子供たちが、自然体験・生活体験・社会体験が教員の負担にならないような形で実施できれば良いと理想的なことを考えています。

#### 【向野委員】

会議を通じて関係各機関の話が聞けたことは大変勉強になったと思っております。

最後に、この計画が実行に移りましたら、途中でぜひモニタリングしながら、進捗状況・達成状況を子供、先生方も含めて、当事者の意見を具体的に反映していくことが必要だと考えます。実際に、本計画にのっとった教育を受けた子供がどう思っているか、どう感じているかということ、私たちは聞いていかなくてはならないと思っています。そういう意味ではアンケートのような形だけではなく、大変かもしれませんが、例えばSNSであるとか、子供の声が生で聞けるような形もあるのかと思っております。

いろいろなことが入ってきて、それを選別するのは大変だと思いますが、そういう小さな声に耳を傾けていかないと、自分たちの身にならないですし、上辺だけ流れていってしまうような気がします。

#### 【小宮山委員】

私も非常に狭い世界で生きてきたので、委員の先生方のご意見を聞いて視野が広がる思いでした。

本計画がスタートして、これを推進し、評価し、ゴールまでたどり着くことが大切だと思いますので、引き続き事務方のご協力も含めて、千葉県がよくなる方向にいていただければというふうに考えております。先生方ありがとうございました。ご尽力に感謝いたします。

#### 【教育政策課長】

資料3を御覧ください。今後の予定としましては、今回の会議でのご意見を素案に反映させていただきたいと思っています。産業界との連携ですとか、地域との連携ですとか、もう少し踏み込んだ記載についてご意見をいただきました。また、指標についても必要なご意見をいただいたと思いますので検討させていただいていきたいと思っています。

これらのご意見を反映しまして、今後パブリックコメントを実施する予定です。その後、パブリックコ

メントでいただいたご意見等を踏まえまして案を教育委員会会議に諮り、年度内に策定公表する予定となっております。

**【教育長】**

これまで5回の会議では、どの先生も大変お忙しい中、ご協力をいただき、ご出席をいただき、ご意見を賜りましたことを改めて感謝申し上げます。本日いただいたご意見も納得がいくものであり、事務局としての不足の部分にも触れていただきました。これらを踏まえまして、よりよい形にして、次の段階に進みたいと思います。

有識者会議としては一旦ここで区切りとなりますが、計画を作ることが目的ではなくて、それをしっかりと実現させていくことが我々の使命でございますので、どうぞこれからもご指導いただければと思います。誠にありがとうございました。